

説明的文章の指導過程

説明的文章の基本的な指導過程

(4) 個人学習による学習の成果を少人数のグループ（4人程度）で交流させる

交流により、事柄、ものの見方・考え方に対する考えを深めていきます。学習者の一人一人が自分の学習成果を4人グループであれば、3人に伝えることができます。一斉学習では、限られた少人数の学習者の発表に止まる場合があります。その結果、多くの学習者には発表の機会が与えられません。

また、全員に発表させると、同じような発表が続き、学習活動が停滞するおそれがあります。一斉学習の場で、特定の学習者の発表があり、その複数の発表を授業者が適宜集約してしまうと、多くの学習者はそれをそのまま受容してしまうということがあります。

少人数であれば、全員が発表できます。お互いの学習成果をしっかりと聞き合って交流することができます。また、話したり聞いたりする体勢も自然な形を取ることができます。

(5) グループ内交流の活動報告をさせる

報告内容としては、一つはということが書かれている文章かの理解、もう一つは事柄、ものの見方・考え方について考えたことです。班員のものを整理して分かりやすく報告することは簡単なことではありません。だからといって、授業者が手際よく整理し、まとめたのでは、学習者の学習にはなりません。学習者がまとめ発表することに学習の意義があります。

聞き手は、自分および班内交流の成果と比較しながら発表を聞くこととなります。発表が終わったら、発表班の一人に進行役をさせ質疑応答を行わせます。授業者は代表班の発表、そして質疑応答を聞き、課題の理解が促進するよう学習指導を行います。このときが、一斉的に学習指導を行う機会となります。

学習の緊張度を保つために、すべてのグループに発表の機会を与えるのではなく、今回の課題の発表ではこのグループにとるようにします。発表の機会の平等性は、別の課題の発表の際に異なったグループを指名すれば保証されることです。

(6) どんなことが書かれている文章かの理解に基づいて各段落（形式段落・意味段落）の要約文を書かせる

① 学習指導の意図

個人ならびにグループの学習により、自分の理解内容に問題意識が醸成されます。この問題意識に基づいて文章の各段落の要約作業を行わせます。同時に、理解内容に対する同意や疑問などの自分の考えを本文に書き込ませます。

要約作業をさせる意図は、これにより文章の精読を行わせ、文章理解の的確度を高めることにあります。もう一つの意図は、読む活動をより意識的に行わせることにより、文章を的確に読み取る読解力の形成にあります。読むことを意識的・自覚的に行わせるため、それを期待することができます。

② 要約学習の意義

要約作業は、文章をよりの確に理解するために行うものです。要約作業により、よりの確に文章を理解することができたという学習の成就感が伴わない要約作業は、練習学習の場合を除いては意味のない学習となります。

要約学習が学習者に嫌われる実態があるとすれば、それは、学習の成就感が伴わない学習になっているからでしょう。よりよく分かったという学習経験をすれば、要約学習の意義を納得するのではないのでしょうか。

③ 要約学習の方法

どのように要約すればよいのでしょうか。この問題に対する定まった答えはないように思います。そこで一つの要約の仕方を提示することにします。それは、仮要旨を設定し、その仮要旨を拠り所にして各段落の要点をとらえ、それを基に要約するというものです。各段落の要点は何か、これを決める手がかりを仮要旨に求めるわけです。要点をとらえる筋道を学習者に理解させる必要があります。これを示さないままに要約学習を課すことは、学習者をいたずらに混乱させることとなります。各段落の要約学習を進めていく過程で、仮要旨の修正をせまられることがあります。これは、仮要旨のとらえが的確でなかったことによるものです。その場合は、その仮要旨を修正すればよいわけです。

(7) ものの見方・考え方について自分の考えを書かせる

考えを深め確かなものにする方法は書くことです。それも断片的に考えを書かせるのではなく、筋道の通った文章を書かせます。そのような文章を書かせるために、論述の構成やどういふことを書くのかの項目を与えることは有効な学習指導となります。